令和７年版 シラバス作成の手引き

岩手大学 教学マネジメントセンター

※令和６年版からの主な変更・追記箇所を赤字にしています。

内容

1　シラバスの意義と役割〔p.1〕
(1) シラバス作成の法令上の根拠
(2) 学生に対して
(3) 教職員に対して
(4) 社会に対して

2　シラバス登録の際の諸注意〔p.2-3〕
(1)「授業で説明する」は不適切
(2) 各種ガイドラインの確認
(3) アイアシスタントの利用
(4) 他のシラバスの再利用方法

3　各項目の解説と記入の仕方〔p.4-14〕
Step1〔p.4-5〕
(1) 主な対象学生
(2) 主な使用言語
(3) 履修上の条件
(4) 担当教員情報
(5) 他の担当教員名
(6) キーワード
Step2〔p.6-12〕
(7)「学位授与の方針」との関係
(8) 授業の目的
(9) 到達目標
(10) 授業の概要
(11) 実務経験の有無と授業内容への反映
(12) 授業の形式
(13) 授業外学修（予習・復習・課題等）への指示
(14) 評価方法・割合・評価の観点
(15) 評価の基準
(16) 評価に関する備考
(17) 履修における留意点
(18) 教科書／教材や参考書の指定
Step3〔p.12-14〕
(19) 詳細計画（授業内容）
(20) 詳細計画（授業外学修（予習・復習・課題等）への指示）
(21) 詳細計画（備考）

付録Ａ　シラバスの仕様に関する前年からの変更点〔p.14〕

付録Ｂ　充実したシラバスの例〔p.14-22〕

1　シラバスの意義と役割

(1) シラバス作成の法令上の根拠

授業担当者にはシラバスの作成が求められます。大学設置基準には、以下の通り、事前に年間の授業計画および成績評価の基準等を明示することが定められています。

大学設置基準（成績評価基準等の明示等）

第 25 条の 2　大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2　大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(2) 学生に対して

学生はシラバスを確認することで、その授業科目を履修することの意味や重要性を始め、具体的な学修目標、成績評価の方法や基準、教科書や参考書、履修の際の留意点などを事前に知ることができます。また、授業外学修を含む具体的な授業内容を把握することで、履修科目の選択を含め、各学期あるいは年間の学修計画を立てることができます。実際に令和 4 年度前期教養教育科目の授業アンケートでは、学問知科目において 3 割を超える学生が、その授業を履修した動機として「シラバスを読んで興味を持ったから」を選択しています。

(3) 教職員に対して

シラバスは教職員間で教育内容を共有するための媒体でもあります。本学の提供する教育プログラムの体系性や教育水準の確認のために、シラバスの存在は欠かせません。ここで、教育プログラムとは、主である学位プログラムばかりでなく、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムなどの各種サブプログラムも含んでいます。

(4) 社会に対して

シラバスは学外に公開されるため、本学の授業内容について社会に対し説明責任を果たすという役割も担っています。本学は学生やその保護者から国や社会まで多様なステークホルダーを有しており、充実したシラバスは本学が教育の質を保証するための土台となるものです。実務の上では、本学の学生・卒業生が他大学に再入学・編入学した際に、既修得単位の認定を受けるための資料として使用されることもあります。対社会を含め、シラバスが広く説明責任を果たすためのものでもあるという認識を持つことが重要です。

2　シラバス登録の際の諸注意

(1)「授業で説明する」は不適切

前述の通り、シラバスは学生のためだけにあるのではありません。従って、読み手として履修者のみを想定したような記述は不適切です。特に授業外学修の内容は「授業中に指示する」のように書きたくなりがちですが、できる限り、履修者以外の読み手にも内容が想像できるように記述してください。一通り記入した後に補足的に「詳細は授業で説明する」のように記述するのは構いませんが、「授業で説明する」のみの記述で済ませるのは不適切です。

(2) 各種ガイドラインの確認

成績評価については本学において「成績評価基準について」が定められているほか、学部・学科等や科目委員会により成績評価ガイドラインが作成されています。また、オンデマンド授業やオムニバス授業に関するガイドラインも作成されています。シラバス作成にあたっては、これらの文書も併せてご参照ください。

(3) アイアシスタントの利用

シラバスの登録は本学の教育関連のポータルシステムであるアイアシスタントを通じて行います。シラバス登録期間になると画面上部にある「シラバス」の文字が赤くなり、シラバスの登録ができるようになります。

「シラバス」をクリックするとシラバス登録画面に移ります。担当科目の一覧が表示されるので、各科目名をクリックすると、入力画面に移ります。オムニバス形式で実施する授業科目の場合は代表者のみがシラバス登録を行うことができます。

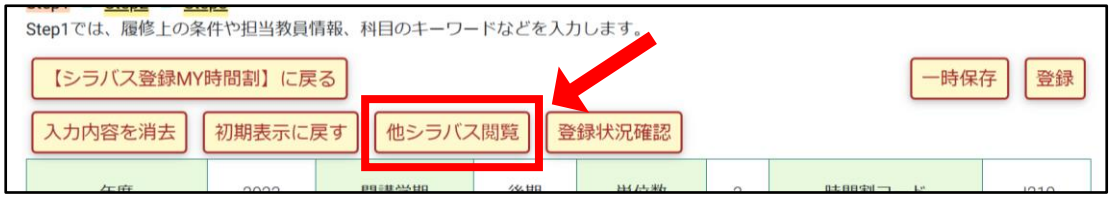
例年、シラバス登録期間は 3 月上旬から中旬にかけて設けられます。9 月には後期科目のシラバス修正期間が設けられます。

なお、シラバス登録にあたり、他のシラバスを再利用することができます（次節参照）。

(4) 他のシラバスの再利用方法

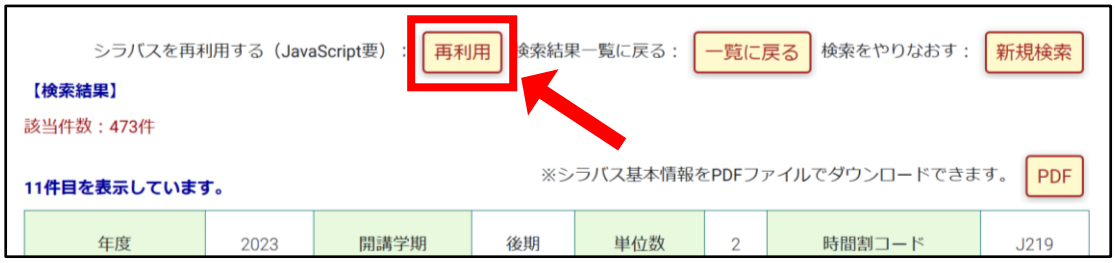
他のシラバスを再利用する際の手順は次の通りです。再利用の際は、科目名をよく確認し、科目名と異なる内容のシラバスを登録することのないようくれぐれもご注意ください。

手順１　シラバス入力画面上部の「他シラバス閲覧」をクリックします。



手順２　シラバス検索画面に移るので、再利用したいシラバスを検索し、選択します。既に登録されているすべてのシラバスの中から再利用するシラバスを選択することができます。

手順３　選択したシラバスが表示されるので、上部の「再利用」をクリックします。



手順４　再利用したシラバスの登録内容が反映されるので、必要に応じて内容の修正を行ってください。ただし、「主な対象学生」において教育学部のみ「コース・プログラム」と「サブコース」で再利用したシラバスの登録内容が反映されず「--未選択--」となるため、適宜入力をお願いします。

手順５　「登録」をクリックするとシラバスの登録が完了します。

3 各項目の解説と記入の仕方

シラバス入力画面は Step1 から Step3 までの 3 ページに分かれています。

Step1　履修上の条件や担当教員情報、キーワードなどを入力します。

※基本的な情報は既に入力されています。

・重複科目とは、学務情報上は異なる時間割コードを持つにも関わらず、実質的に 1 つの授業として実施されている授業科目のことです。同一時間帯に同一教員が複数の授業科目を担当する場合に、それらが自動的に重複科目となります。1 つの科目でシラバスを登録すれば、他の重複科目のシラバスにも内容が反映されますが、「主な対象学生」についてはそれぞれのシラバスで登録する必要があります。

・セット科目とは、その学期中に同時に履修すべき科目のことです。例えば、週 2 回のクラスを同一教員が担当する場合は 1 科目分のシラバスを登録することになりますが、複数の教員が担当する場合はそれぞれシラバスの登録が必要となります。

(1) 主な対象学生（入力必須）

履修者として対象となる学生の学部や学年などをプルダウンから選択します。「行の追加」をクリックすることで 5 つまで選択可能です。

(2) 主な使用言語

主に使用する言語を日本語、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語、その他から一つ選択します。

(3) 履修上の条件

その授業科目を履修する上で前提となる条件を記入します（「復習を必ず行うこと」のような学修上の指示を記入する項目ではありません）。ただし、本項目に記入しても履修申告時にシステム上の履修制限等が行われる訳ではありません。

履修上の条件の記入例

「～を希望する者は必ず履修すること」
「～していないものは履修を認めない」
「～を履修しておくこと」　※～は科目名
「～について～レベル程度の知識を有することが望ましい」

(4) 担当教員情報（一部入力必須）

英語表記の氏名（入力必須）、研究室、個人サイト、質問・相談方法（入力必須）を記入します。

「常勤・非常勤」は自動入力されます。例えば、シラバスを登録する 3 月まで常勤教員として勤務し、シラバスが公開される 4 月以降に非常勤講師として授業を担当する場合は、まず「常勤」として登録され、4 月になると自動で「非常勤」に情報が更新されます。

質問・相談方法には、学生が質問や相談をする際の方法を記入します。

質問・相談方法の記入例

「月曜 10:00～12:00 に研究室に来ること」

「メール（xxx@iwate-u.ac.jp）で日時を調整した上で対応する」

「随時 WebClass のメッセージから質問・相談を受け付ける」

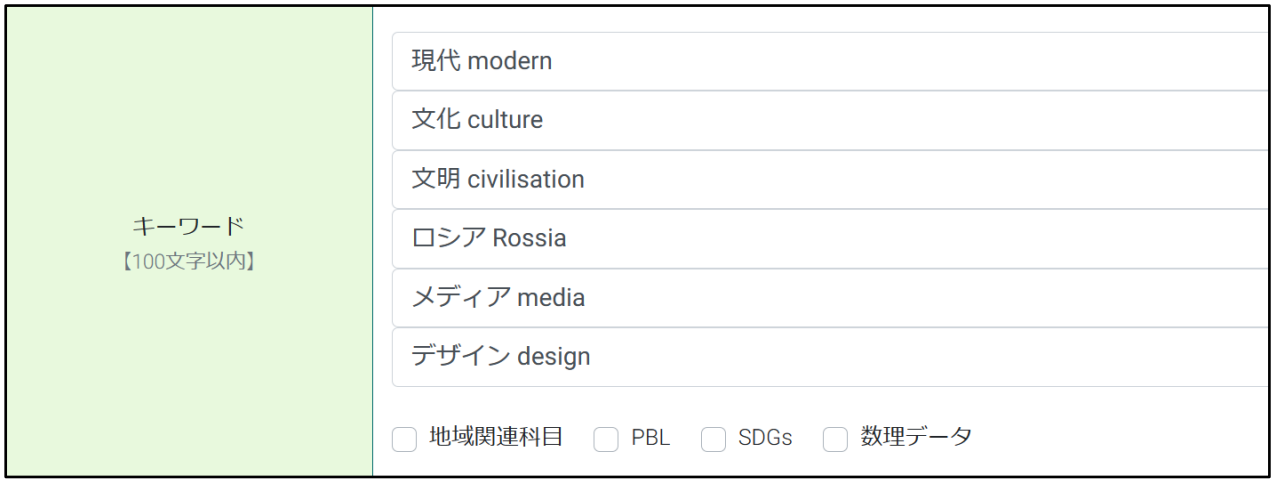
(5) 他の担当教員名

オムニバス方式で開講する授業科目などで授業担当者が複数名の場合、シラバスを登録できるのは担当代表者のみです。そして、担当代表者が本項目に他の授業担当者を登録することで、登録された教員の My 時間割上にも授業科目名が表示され、WebClass などの機能を共有することができます。登録の際は、登録したい教員の学内メールアドレスの@より前の部分を入力し、「追加」をクリックしてください。

(6) キーワード（入力必須）

授業内容を端的に表すキーワードを 3 ～5 個程度、日本語と英語（もしくは他の言語）の両方で記入します。シラバス全体を英語で書く場合は、英語のみでも構いません。キーワードは簡易検索のフリーワード検索で検索対象となります。シラバスに日本語と英語（もしくは他の言語）の両方でキーワードを示すことは留学生の助けになります。

キーワードの入力の際は、次のように一つの枠内に一つのキーワードを日本語と英語の両方で記入します。



Step2　授業全体の計画や成績評価の方法と基準、履修における留意点などを入力します。

(7)「学位授与の方針」との関係（自動入力）

その授業科目が、関連する学位プログラムにおける「卒業認定・学位授与の方針」のどの項目の達成にどの程度寄与するのかを示す項目です。本項目はカリキュラムチェックリスト（下記参照）に基づき自動で入力されます。ただし、課外科目や国際教育科目の場合は、「この科目は本学の学位プログラムと直接の関係はありません。」と入力されます。

なお、システムの都合上、その授業科目と直接関係しない学科・コース等の「学位授与の方針」との関係が表示されることがあります。

カリキュラムチェックリストとは

各学位プログラムにおいてカリキュラムを構成する各授業科目が「卒業認定・学位授与の方針」の各項目の達成にどの程度寄与するのかを百分率で示しまとめたものです。「卒業認定・学位授与の方針」はディプロマ・ポリシー（Diploma Policy, DP）とも表記されます。教養教育科目については本学の定める「学位授与の方針：学士課程」の各項目への寄与をまとめたカリキュラムチェックリストが別に定められています。

各学位プログラムのカリキュラムチェックリストは本学 HP のカリキュラム・ポリシーのページで公表されています。また、以下の手順によりアイフォリオでも確認することができます。

手順１　アイアシスタントへのログイン後の画面上部にある「InFolio」をクリックします。

手順２　アイフォリオの画面左部にある「ポリシー集計」をクリックします。

手順３　上部の「DP 累計達成量集計グラフ」タブを選択します。学部・研究科等の項目をプルダウンから選択し、「グラフの表示/更新」をクリックすると、ディプロマ・ポリシーに続き、カリキュラムチェックリストが表示されます。

カリキュラムチェックリスト

教養科目

				ディプロマ・ポリシー													
科目区分コード	科目区分	科目コード	科目名	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	計
Q110010	＜実践知科目＞（転換教育科目）	Q0K00100	基礎ゼミナール	5	5	30	40	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110020	＜技法知科目＞（外国語科目）			30	0	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110030	＜技法知科目＞（健康・スポーツ科目）			90	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110040	＜技法知科目＞（情報科目）			70	0	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110050	＜学問知科目＞（文化科目）			80	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110060	＜学問知科目＞（社会科目）			80	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110070	＜学問知科目＞（自然＆科学技術科目）			80	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110080	＜学問知科目＞（環境科目）			70	0	10	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110090	＜学問知科目＞（地域関連科目　地域科目）			40	0	10	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110100	＜実践知科目＞（地域関連科目）	Q0K00330	課題発展型演習	50	0	0	20	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
Q110110	＜実践知科目＞（地域関連科目　地域課題演習科目）			30	0	10	10	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			合計	625	5	110	150	210	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

専門科目

				ディプロマ・ポリシー														
科目区分コード	科目区分	科目コード	科目名	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	計
H120050	＜副専修プログラム＞			0	40	30	20	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
H120010	＜学部共通科目＞	H1K00130	課題解決型国際研修（英語）	0	0	0	10	60	30	0	0	0	0	0	0	0	0	100

(8) 授業の目的（入力必須）

教育プログラムにおける当該授業科目の位置づけを踏まえ、授業を開講する目的やねらいを記入します。課外科目については目的やねらい及び関係する資格等を記入します。学生にとってその授業を履修する意味や重要性が分かり易いように記入してください。教職課程認定科目の場合は、教員養成の目標達成のための計画との関係も併せて記入します。目的と目標の違いについては次節を参照してください。

授業の目的の文末表現の例

「～について学ぶ／理解する」「～する力を養う」

「～する態度を身につける」

(9) 到達目標（入力必須）

授業の目的を踏まえ、学生がどのような知識・能力等をどの程度まで身につけることを目標に授業を行うのかを具体的に記入します。到達目標はシラバスの中でも核となり、教員にとっては教育目標、学生にとっては学修目標となるものです。学生にとって目標とする基準が分かり易いよう、学生を主体とする表現で記入します。本学の定める「成績評価基準について」あるいは学部・学科・科目委員会等の定める成績評価ガイドラインには、到達目標の達成度に基づく絶対評価により成績評価を行うことが明記されています。このことから、観察可能な行為を伴う目標として到達目標を記入することが推奨されます。

例えば「健康のために毎日 3km 走る」という場合には、健康の維持・増進が「目的」に、毎日 3km 走ることが「目標」にそれぞれ該当します。このように、授業の目的は抽象的で理念的なものであり、到達目標はそれを達成するための具体的な目印となるものと理解するのが良いでしょう。そのため、到達目標を掲げたからといって、その達成のみが授業の目的ということにはなりません。目的を果たす、目的に近づくために具体的にどのような到達点を目標とするのかというのが本項目の意図です。

目的と目標の意味の違い（『日本国語大辞典 第 2 版』より）
目的　実現しようとしてめざす事柄。めざす所。めあて。
目標　ある物事をなし遂げたり、ある地点まで行きついたりするための目印。めあて。

「～について学ぶ」などは、到達目標というよりも授業の目的に相応しい表現です。このような表現を用いると、少しでも「～について学ぶ」ことで目標が達成されるというように受け取ることができてしまいます。具体的にどの程度まで学ぶことを目標とするのかを示すことが重要です。

「～を理解する」という到達目標がよく見られますが、教員の想定する理解のレベルと学生が「理解した」と自己判断するレベルに大きな差が生まれやすく、やや曖昧な表現です。このようなコミュニケーション・ギャップを防ぎ、学生の主体的な授業外学修を促すためにも、到達目標は具体的かつ観察可能な行為を伴う目標として設定することが推奨されます。

また、「授業内容の 6 割以上を理解できる」のような記入の仕方も適切ではありません。これはどちらかと言えば、成績評価の基準に相当する記述内容です。目標とする到達点の具体的な内容を示す必要があります。

到達目標として不適切な文末表現の例	理由
「～について学ぶ／考える」 「～する意欲を高める」 「～する力を培う」	目標とする到達点（どの程度まで学ぶことを目標とするのか）が示されていない
「授業内容の 6 割以上を理解できる」 「教科書の演習問題を 6 割以上正解できる」	目標とする到達点の具体的な内容が示されていない

到達目標として適切な文末表現の例

「～について説明できる（ようになることを目標とする）」
「～について自分の考えを述べることができる」
「～を用いて計算／分析／予測できる」

(10) 授業の概要（入力必須）

授業内容や授業の進め方など、授業全体を把握できるように授業の概要を記入します。特にオンデマンド授業を実施する場合は、学修成果を確認する方法や学生へのフィードバックの方法を記入します。

(11) 実務経験の有無と授業内容への反映

授業担当者が授業内容に関連する実務経験を有する場合に、経歴や実務経験の詳細およびそれを活かした授業内容について記入します。オムニバス形式で、企業等から講師を招いて授業を行う場合にもご記入ください。実務経験の例として、獣医師、臨床心理士、公認心理師、弁護士、小・中・高等学校での教員経験、民間企業や官公庁での勤務経験、自営業などが挙げられます。

(12) 授業の形式（入力必須）

授業の形式を記入します。特にオンデマンド授業を実施する場合は、実施回数を含め、オンデマンドで実施する旨を記入します。また、遠隔授業（下記参照）に該当する場合は、チェック欄にチェックを入れます。

授業の形式の例

「講義形式」「演習形式」「講義および演習／グループワーク」「PBL（Project based leaning）」
「講義（14 回のうち 3 回分をオンデマンドで実施）」

遠隔授業とは

大学設置基準により、全授業回の半数を超えて（全 14 回の場合、8 回以上）オンライン授業（オンデマンド授業を含む）を実施する場合、その授業科目は「遠隔授業」という扱いになります。

(13) 授業外学修（予習・復習・課題等）への指示（入力必須）

授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の内容を記入します。授業外学修を含む 45 時間の学修で 1 単位という単位制度の実質化の観点から、授業担当者は授業外学修の内容まで含め授業を設計することが求められます。従って、「特になし」や「予定していない」などの記述は不適切です。学生の自主性に任せるという意図で「特に指示はしない」という意味であれば、実際の学生の学修状況を確認し、もし十分な授業外学修が行われていない場合には、具体的な指示を検討する必要があります。

単に「予習・復習すること」などの記述や学修時間の目安の提示ではなく、予習・復習・課題等の内容を具体的に記入してください。また、「2　シラバス登録の際の諸注意」にある通り「授業中に指示／説明する」という記述は不適切です。

具体例については 15 ページ以降の「付録Ｂ　充実したシラバスの例」をご参照ください。

授業外学修への指示として不適切／不十分な例	理由
「特になし」「予定していない」	単位制度（授業外学修を含む 45 時間の学修で 1 単位）に反するため不適切
「授業中に指示する」	読み手としての想定が履修者のみのため不適切
「予習・復習を欠かさないこと」 「各回約 2 時間の学習を目安とする」	具体的な内容の記述がないため不十分

(14) 評価方法・割合・評価の観点（一部入力必須）

評価方法（入力必須）とそれぞれの方法が全体の評価に占める割合（入力必須）、評価の観点を記入します。評価方法として「平常点」「レスポンスカード」「小テスト」「課題・レポート」「期末テスト」が初期入力されていますが、例として示しているだけのものなので、適宜編集してください。用いない方法（割合が 0%の方法）は文字列を消去してください。空欄になった行は表示されなくなります。次の「評価の基準」にあるように、「出席点」など出席自体に加点する（ように見える）記入は避けてください。割合は百分率で合計が 100%になるように入力します。30~40%のように幅を持たせて入力したい場合は半角記号の「~」を用いてください。数字または半角記号の「~」以外の文字を入力して登録しようとするとエラーになります。評価の観点は、重視するものに「◎」や「○」、参考にするものに「△」などと記入します。

評価方法(※)【60文字以内】	割合(※)	評価の観点【5文字以内】			
		関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
平常点	20 %	◎	○		
期末テスト	80 %		◎	○	◎
	%				

↑用いない（割合が 0%の）方法の文字列を消去　　↑「◎」「○」「△」などの記号を入力

(15) 評価の基準（入力必須）

成績評価の基準を具体的に記入します。本学の定める「成績評価基準について」や学部・学科・科目委員会等の定める成績評価ガイドラインには、到達目標の達成度に基づく絶対評価により成績評価を行うことが明記されています。到達目標ごと、あるいは評価方法ごとに、どの程度の水準でどの程度の評価になるのかを詳細に記入します。「平常点、レポート、試験により総合的に評価する」のように実質的に評価方法と変わらない記述や、単なる評点と評価の関係（「90 点以上で秀」など）の説明に留まる記述では不十分です。教員が評価を付ける際の手続きの説明になりがちですが、そうではなく、例えば「教科書の練習問題が確実に解けるようになれば「良」」のように、どの程度の達成度でどの程度の評点・評価になるのかを学生がイメージできるように記述することが重要です。

複数の評価規準（評価項目・観点）について複数の評価基準（達成度の水準・尺度）を設定することが一つの理想と言えるでしょう（cf. ルーブリック）。具体的な評価規準・基準を学生と共有することは、成績評価の公平性や、学生の主体的な学修の促進につながると考えられます。

また、到達目標の達成度に基づき成績評価を行うという方針から、「出席点」のように出席さえしていれば加点されるように見える記入は避けてください。平常点に相当する内容で「出席点」を用いている場合は「平常点」を用います。また、平常点の基準としても「出席」や「出席状況」などの表現は避け、「授業への参加度」のように学修のプロセスを評価する意図が伝わるように記入します。なお、出席に関しては「4 回以上の欠席で不合格とする」のように評価を受けるための必要条件として用いることが推奨されます。

具体例については 15 ページ以降の「付録Ｂ　充実したシラバスの例」をご参照ください。

評価の基準として不十分な例	理由
「平常点、レポート課題、期末試験により総合的に評価する」	実質的に評価方法の記述と変わらない
「平常点(20%)、レポート課題(20%)、期末試験(60%)により評価し、60 点以上を合格とする」	どの程度の達成度で 60 点以上になるのかが分かりづらい

出席点に関する修正例

修正前	修正後
「レスポンスカードの提出により出席点とする。ただし白紙またはそれに近い場合は出席と認めない」	「レスポンスカードの内容を評価し平常点とする」
「平常点は出席状況により評価する」	「平常点は授業への参加度により評価する」

参考）ルーブリックとは

学習目標の達成度を評価するためのツールの一つです。評価規準（評価項目・観点）とその水準・尺度を複数の段階に分けて記述した評価基準から構成されます。レポートやプレゼンなどの評価に特に有効

とされていますが、その考え方は授業科目の成績評価の際にも参考になります。

論証型レポートのルーブリックの例

	基準 C	基準 B	基準 A
規準① 全体の構成	序論・本論・結論が区別されていない	序論・本論・結論が部分的に区別されている	序論・本論・結論の構成が明確になっている
規準② 序論の内容	目的と背景のいずれの記述も不十分である	目的と背景のどちらかの記述が不十分である	目的と背景が適切に記述されている
規準③ 文章表現	分かりやすく正確な文章表現ができていない箇所が散見される	一部を除き分かりやすく正確な文章表現ができている	分かりやすく正確な文章表現ができている
・ ・ ・			

(16) 評価に関する備考

成績評価について補足説明があれば記入します。ルーブリックのファイルを添付することもできます。

(17) 履修における留意点

履修する上での留意点があれば記入します。

(18) 教科書／教材や参考書の指定

教科書や教材、参考書の指定があれば記入します。ここで指定された図書の情報は図書館と共有され、図書館での配架が検討されます。「教科書／教材」は著者名またはタイトルのみの入力で登録することができます。これは、以下のように図書の情報ではなく教科書や教材に関する説明文を表示できるようにするためです（以下の例では一行ごとに登録を行うことで２行の文章を表示しています)。

教科書 / 教材	教科書は特に指定しません。 授業で必要な教材については、そのつど配布します。

Step3　詳細計画を入力します。

(19) 詳細計画（授業内容）（入力必須）

各回の授業の具体的な内容を記入します。「１　シラバスの意義と役割」にある通り、大学設置基準により、大学には事前に学生に年間の授業計画を示す義務があります。シラバスの充実を図るためには、授業

内容をキーワードで示すのではなく、「何を」「どの程度まで」学修するのかを文章で説明すると良いでしょう。加えて、各回の到達目標を提示するとさらに望ましいものになります。オムニバス方式で授業を開講する場合、担当代表者は各回の授業内容について他の授業担当者に確認し、取りまとめたうえでシラバスに記入します。なお、「中間試験」や「期末試験」のように試験のみの実施で1回分の授業を構成することは避け、「後半のまとめと期末試験」のように授業と試験を組み合わせる形で入力するようにしてください。

試験に関する修正例

修正前	修正後
「中間試験」	「前半のまとめと中間試験」
「期末試験」	「後半のまとめと期末試験」「全体のまとめと期末試験」

(20) 詳細計画（授業外学修（予習・復習・課題等）への指示）（入力必須）

各回の授業外学修（予習・復習、課題への取り組みなど）の具体的な内容を記入します。前述の通り、単位の実質化の観点から、授業担当者は授業外学修の内容まで含め授業を設計することが求められます。単に「予習・復習すること」などの記述や学修時間の目安の提示ではなく、予習・復習・課題等の内容を具体的に記入してください。また、「2　シラバス登録の際の諸注意」にある通り「授業中に指示／説明する」という記述は不適切です。前項目の授業内容の繰り返しのような記述も避けてください。オムニバス方式で授業を開講する場合、担当代表者は各回の授業外学修への指示について他の授業担当者に確認し、取りまとめたうえでシラバスに記入します。

授業外学修を促すためには、「何を」「どの程度まで」学修するのかを明確にすると効果的です。また、例えば「～に目を通しておくこと」ではなく「～に目を通し、要点を 400 字程度でまとめておくこと」とするなど、具体的な成果物をイメージできるように指示することも有効です。

具体例については 15 ページ以降の「付録Ｂ　充実したシラバスの例」をご参照ください。

授業外学修への指示として不適切／不十分な例	理由
授業内容の繰り返し（コピペ）	明らかに不十分
「特になし」	単位制度（授業外学修を含む 45 時間の学修で 1 単位）に反するため不適切
「授業中に指示する」	読み手としての想定が履修者のみのため不適切
「要予習・復習」 「1 時間の復習を求める」	具体的な内容の記述がないため不十分

(21) 詳細計画（備考）

オンデマンド授業を実施する場合、その旨を記入します。

付録 A　シラバスの仕様に関する前年からの変更点

〇項目内容の拡充

「授業の形式」に遠隔授業（p.9 参照）に該当する場合のチェック欄を追加しました。

付録 B　充実したシラバスの例

充実したシラバスの例として次の 2 点を挙げます。次ページ以降に実際のシラバスを掲載します。

・2024 年度前期「環境社会学 I」（人文社会科学部　塚本善弘先生）
・2024 年度前期「大学の歴史と現在」（評価室　大川一毅先生）

年度	2024	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	H512
授業科目名	環境社会学Ⅰ			担当教員名	塚本　善弘		
授業科目名：英語	Environmental Sociology 1						
重複科目名	環境社会学Ⅰ【HE12】（【時間割コード】）						
セット科目名							

開講情報		曜日	時限	時間割コード
	●1	金	2	H512

【凡例】
●：当該科目
□：同時に履修すべき科目（セット科目）

主な対象学生	人文社会科学部 地域政策課程 環境共生専修プログラム 2／人文社会科学部 地域政策課程 地域社会連携専修プログラム 2			
科目の情報	科目の種別	専門教育科目	科目番号	
主な使用言語	Japanese			
履修上の条件				

担当教員情報		
	氏名（カナ）	塚本　善弘（ﾂｶﾓﾄ ﾖｼﾋﾛ）
	担当教員名（英語）	TSUKAMOTO Yoshihiro
	常勤・非常勤	常勤
	所属	人文社会科学部 地域政策課程
	研究室	人社１号館４０３室（環境社会学研究室）
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/388_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/re-ad_195388
	個人サイト	
	質問・相談方法	相談可能時間は、火曜日・お昼休みの時間帯（前期は １２：２０頃～１３：００）に、上記・研究室を予定しています。また、本科目の授業終了後の時間帯にも、授業実施教室にて 質問・相談を受け付けます。

他の担当教員	
キーワード	環境問題の自己回帰性　Autoregressive of Environmental Problems、受益圏・受苦圏　Theory of the Beneficial and Costly Spheres、環境問題の社会史的研究　Social History Study of Environmental Problems、社会的ジレンマ　Social Dilemma、地域開発のメカニズム　Mechanism of the Community Development、地域関連の学修　Local Related Study、地域関連科目、ＳＤＧs

学位授与方針との関係	人文社会科学部 地域政策課程 地域社会連携		
	【学部：知識・理解】	教養教育により幅広い分野の知識を修得している。	70%
	【学部：知識・理解】	人間・文化・社会・環境について、教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし、専門的な知識と理解を有するとともに、総合的・学際的な広い視野を有している。	10%
	【学部：技能・表現】	グローバル化が進む社会において、多様な考え方、異質なものを理解するとともに、自らの見解・成果を的確に表現し、発信できる高いコミュニケーション能力を有している。	10%
	【専修：思考・判断】	経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。	10%

授業の目的	戦後から現在に至るまでの（主に）日本における 地域（ローカル、リージョナル・レベルの）環境問題を中心とした環境問題の特徴、特に 環境問題をめぐる社会的構造と、社会学的視点から提案されている問題解決策を理解してもらうとともに、「環境社会学」という学問分野における基本的な概念やものの見方・考え方を習得していただくことを、この講義の目的としています。 なお、本科目は（高校・公民）の教員免許状取得に対応した科目です。 「教員の養成の目標 及び 目標達成のための計画」の中の教科に関する一般的・包括的内容を含む科目、又は 高校公民に関する科目に当たり、教職 及び 各教科に関する基礎学力を習得していただきます。
到達目標	・「環境社会学」の学問分野としての成立過程や従来の社会学との違いという観点から、「環境社会学」の特徴や基本的概念、考え方について、説明できる。 ・戦後の（主に）日本社会における 地域環境問題を中心とした 環境問題の史的展開過程の特徴や、現実の環境問題生起の背後にある社会的・文化的メカニズムを、専門的な視点、概念を用いて説明できる。 ・現代日本における（特に地域レベルの）開発・環境問題の特徴や問題生起に関わる社会的構造について、問題意識を持ち、どこにどのような問題があるのかを指摘できる。 ・現代日本における開発・環境問題の解決策として、どのような方法があるのかを指摘できる。 ・現代日本における開発・環境問題について、既存の様々な専門的意見と比較しながら、自分なりの観点から解決策を考え、述べることができる。
授業の概要	自然と人間との関係が、近代化の進展に伴って、より複雑なものに変質していく過程で、公害をはじめとする様々な問題が発生し、環境問題は単に自然界の問題というのではなく、文明のあり方や社会生活そのものに関わる構造的な問題として認識することが求められるようになってきました。社会のあり方（仕組み）や人間そのものの生活、ライフスタイルを変えていかなければ、環境問題は解決困難であり、「文明社会」と「環境」との“ 共存 ”を考えることも、現代社会学における重要な研究テーマとなっています。 そこで まず、本科目の前半部分では、環境社会学の成立過程を環境問題の歴史的変容過程と絡めつつ考察するなかで、環境社会学の基本的な視点を説明していきます。その上で、後半部分では、環境社会学が実際の問題にアプローチしようとする際に用いる論理、とりわけ、「社会的ジレンマ」論や「受益圏・受苦圏」論を解説することによって、現実の

授業の概要	環境問題生起の背後にある社会的・文化的メカニズムの特徴と、問題解決に向けた方策について検討、考察していく予定です。
実務経験の有無と授業内容への反映	
授業の形式	基本は、通常の講義形式となります。また、講義内容への理解を深めてもらうため、１回は ビデオを教材として使用する予定です。なお、質問は随時 受け付けます。 ※新型コロナウィルス感染症対応 等のため、オンライン式に切り替える場合も 想定され得る点には（その場合、アップしたオンデマンド動画を視聴する形となる可能性）、十分、注意しておいてください。
授業外学修（予習・復習・課題等）への指示	講義内容のより一層の理解、ならびに 講義内容との関連で学期中に課すレポート作成（１回の予定）や 学期末試験対応のためには、配布プリント・資料や講義中に紹介する参考図書等にあたるとともに、授業の復習・要点整理等を コンスタントに、毎回 欠かさず行なっておくことが必要となります。 また、レポート作成等のためにも、 受講される皆さんには、新聞や雑誌、テレビ、インターネットの信頼できるニュース・サイトなど、各種メディアからの授業内容に関連した情報に、日頃から、幅広く 注意を払うようにしてもらいたい。

詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）

回／週	授業内容	授業外学修（予習・復習・課題等）への指示	備考
1	オリエンテーション（ガイダンス）、 ならびに、 社会学とはどんな学問か？（研究対象とその基本的視点、方法）① ～隣接社会諸科学との関連から見た「社会学」の特徴	（予習）事前に、シラバスを読んでくること。 （復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
2	社会学とはどんな学問か？ ②～社会の構造、社会学の基礎概念と社会の構成単位、社会学の特徴と役割, ならびに 「環境社会学」成立の背景①～「環境問題の社会学」から「環境社会学」へ（自然－人間関係に対する認識法（１））	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
3	「環境社会学」成立の背景②～「環境問題の社会学」から「環境社会学」へ（自然－人間関係に対する認識法（２）や＜環境＞＜環境問題＞の定義を中心に、環境社会学の特徴を説明）、 地球環境問題の登場と「環境社会学」の成立 （地球環境問題をめぐる近年の動向・対策の要点も、少し説明）	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
4	環境問題の分類（社会学的観点からの環境問題の類型化）～「地域環境問題」と「地球環境問題」共通の特色とは？、 「受益圏」「受苦圏」概念に基づく環境問題の類型化、 環境問題の拡がりという観点からの分類	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
5	環境問題をめぐる行政－企業－市民関係の社会史的考察①～社会史とは何か？、 戦後日本社会における環境問題の変遷、 日本と欧米の「環境運動」の違い、 戦後復興期から高度成長・前期にかけての環境問題、とりわけ「公害」問題をめぐる社会的構造の検討（その典型例としての水俣病問題の考察（１））	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
6	環境問題をめぐる行政－企業－市民関係の社会史的考察②～水俣病を素材とした、「公害」発生に伴う地域生活・社会関係の破壊と 再生の経緯（水俣病問題の考察（２））	（予習）事前配布資料に 目を通しておくこと。 （復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理した上で、右記・レポート課題に取り組み、指定された期限までに提出すること。	・授業内容をより理解してもらうための教材として、ビデオを使用予定。 ・ビデオの内容に関連して、レポート課題を出題予定。
7	環境問題をめぐる行政－企業－市民関係の社会史的考察③～高度成長・後期以降の地域開発の理想と現実（１；その社会的背景・構造を中心に 考察）	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
8	環境問題をめぐる行政－企業－市民関係の社会史的考察④～高度成長・後期以降の地域開発の理想と現実（２）、 公害裁判と企業・行政の対応、 生活環境問題・地球環境問題の登場と環境運動の新展開（１）行政－企業－市民間関係のゆくえ（環境ＮＰＯ・ＮＧＯの役割増大と課題なども含む）	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
9	環境問題をめぐる行政－企業－市民関係の社会史的考察⑤～生活環境問題・地球環境問題の登	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	

9	場と環境運動の新展開（２）、 行政－企業－市民間関係のゆくえ（環境ＮＰＯ・ＮＧＯの役割増大と課題なども含む）， 　ならびに 地域開発・環境問題の社会的構造とその制御―「社会的ジレンマ」論の視点から―①～「社会的ジレンマ」の基本的意味		
10	地域開発・環境問題の社会的構造とその制御②～「社会的ジレンマ」概念適用範囲の拡張、 「社会的ジレンマ」の４類型、 「受苦圏」の形成を伴う大規模開発地点選択の背景	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
11	地域開発・環境問題の社会的構造とその制御③～地域開発のメカニズムの特徴とは？、 地域開発のメカニズムと「社会的ジレンマ」	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
12	地域開発・環境問題の社会的構造とその制御④～「社会的ジレンマ」解決法としての社会構造的要因の制御方法と、個人的要因の制御（１）	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
13	地域開発・環境問題の社会的構造とその制御⑤～「社会的ジレンマ」解決法としての個人的要因の制御（２；主に 環境社会心理学の立場・研究の知見に基づき、考察する予定。とりわけ 家庭ごみ減量化の具体的方策や、ごみ減量意識の形成・醸成と行動実践とのかかわりは？―それらの形成・実行要因は、何か） ※（最後に）成績評価の方法と 期末試験の出題内容などについて、説明します。	（復習）配布された資料等を再読し、授業内容の要点を整理しておくこと。	
14	まとめ（ふりかえり）と 学期末（筆記）試験	（予習）事前に、本授業全体をふり返り、要点等を整理した上で、学期末試験に臨むこと。	
15	※（予備日）		
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点（レスポンスカード＝「出席票」記入内容など）	10~15%	○			
	レポート（学期中に１回）	15~20%	◎		○	◎
	期末試験	60~65%		◎	○	◎

評価の基準

１．レスポンスカード（=「出席票」）
・（授業の内容に関連した）文章を書いて提出している。
・記入内容に、眼を引く点がある。→ 加点

２．レポート （※以下の点数配分は、２０点満点で評価をつけた場合）
・日本の代表的「公害」問題をめぐる社会的構造の特徴と、その問題点を取り上げ、説明できる。
・問題状況解決策に関し、自分なりの視点も含め具体的意見が書かれている。
　→ ここまでできれば１６点

・（上記に加え）より専門的な観点からの記述、文献や各種メディアからの情報が引用・参照されている。
　→（そうした記述や引用・参照がある／明記されている場合）その程度によって １７～２０点

３．期末試験（※以下の点数配分は､期末試験の評価の比重を ６０％とした場合）
（ア）概念や基本的事項、考え方を説明する問題（２５点前後の配点）
　→ 説明の正確さの度合いで評価。

（イ）日本における戦後から現在に至るまでの環境問題をめぐる社会的構造や各主体間の関係性の特徴と問題点、問題解決策について、具体的に説明し、考えを書いてもらう問題（３５点前後の配点）
・授業で扱った概念や基本的事項、考え方を理解した上で用いている。
　→　誤使用の場合は、減点。

・戦後日本における地域開発の多くが、生活環境・自然環境破壊をもたらしてきた原因を、説明できる。
・日本における行政・企業と市民との関係が転換しつつあることを、環境問題の性格変容という観点から、具体的に説明し、現在の環境問題をめぐる行政－企業－市民間関係の問題点を指摘できる。
・環境問題をめぐる「社会的ジレンマ」構造の特徴と、こうした構造を制御し、問題を解決するための方策、及び その問題点について、具体的に取り上げ説明できる。

→　ここまでできれば８割の得点 ・（上記に加えて）より専門的な観点から、解決策を提案することができる。 ・受講者自身が事前に調べた 専門的文献や各種メディアからの情報が引用・参照されている。 →（こうした観点からの提案や引用・参照がされている場合） その程度により、８～１０割の得点 出席回数（※もし、オンデマンド型授業の回があった場合は、WebClassでの出席確認・簡易課題への回答で代替―「出席」に替える）が少なかったり、レポートが 期限迄に未提出の場合、単位修得が厳しくなるため、注意すること。 これらの評価方法・項目の評価を合算したものを最終評価とし（総合的に評価）、 秀 （90点以上）、優 （80～89点）、良 （70～79点）、可 （60～69点）、不可 （60点未満） とします。	
履修における留意点	期末試験対策やレポート作成のためにも、受講される皆さんには、ぜひ 新聞や雑誌、テレビなど 各種メディアからの関連情報に、日頃から注意を払うようにしてもらいたい。
教科書 / 教材	特定のテキストは使用せず、 必要な資料は 適宜、プリントとして配布します。
参考文献	鳥越皓之・帯谷博明 編、よくわかる環境社会学（第２版） （やわらかアカデミズム・（わかる）シリーズ）、ミネルヴァ書房、2017年、9784623079346 舩橋晴俊 編、環境社会学、弘文堂、2011年、9784335551437

年度	2024	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	Q009
授業科目名	大学の歴史と現在			担当教員名	大川　一毅		
授業科目名：英語	History of Universities and Universities Today						
重複科目名							
セット科目名							

開講情報		曜日	時限	時間割コード	
	●1	水	5	Q009	【凡例】 ●：当該科目 □：同時に履修すべき科目（セット科目）

主な対象学生	人文社会科学部　1／教育学部　1／理工学部　1／農学部　1
科目の情報	科目の種別：教養教育科目　科目番号：
主な使用言語	Japanese
履修上の条件	前期科目木曜日、及び後期科目の「大学の歴史と現在」は同一担当同一内容で重複履修できません。また、これら授業の単位既得者も履修できません。

担当教員情報	
氏名（カナ）	大川　一毅（ｵｵｶﾜ ｶｽﾞｷ）
担当教員名（英語）	Ohkawa,Kazuki
常勤・非常勤	常勤
所属	評価室
研究室	事務局２階
公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/633_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/kazuki-ohkawa
個人サイト	
質問・相談方法	本部事務棟２階「評価室」にて月曜日10時～12時、及び金曜日10時～12時に、皆さんからの相談に対応するため常時在室します。なお、事前に連絡があれば日時調整の上で他の曜日や時間でも随時対応します。また、ウェブクラスのメール機能を活用した質問・相談も可能です。

他の担当教員	
キーワード	岩手大学PRIDE、自校教育、大学で何をするか、大学の歴史、旧制学校（旧制中学、女学校、師範学校、旧制専門学校、旧制高校、帝国大学）、新制大学

学位授与方針との関係		
	学位授与の方針：学士課程	
	幅広い基礎的知識：文化・社会・自然に関する諸現象についての学問的な基礎的知識を有する	40%
	領域を超えた学際的知識：グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉えるための学際的知識を有する	30%
	論理的思考力：自然現象や社会現象等を多面的に考察し、自分の考えを論理的に展開できる	20%
	持続可能な共生社会への志向性：環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対して、持続可能性と共生の観点からその解決に取り組む姿勢を持つ	10%

授業の目的	「大学」という組織やその制度の歴史的変遷を学ぶことを通し、自分たちが所属する「岩手大学」のことや「大学での学び」を自覚的に理解し、そのうえで各自が今後進むべき道を考える契機とします。
到達目標	・日本の「大学」の誕生時から現在までの歴史的流れについて語ることができる。 ・現在日本の大学の状況について、大学がもたらす成果や大学をめぐる課題を含めて語ることができる。 ・岩手大学学生として自学への理解を深め、地域からの期待を含めた岩手大学の特性を第三者に語ることができる。 ・岩手大学で自分が何を学び行動したいのかを考え、その内容を他者に伝えることができる。
授業の概要	大学はどこも同じではありません。どの大学にも歴史があり、ドラマがあります。それぞれの時代状況の中で、大学は自らの使命（ミッション）を掲げて創立し、その実現に向けて多くの人々が力を合わせ発展させてきました。岩手大学も例外ではありません。ならば私たちの岩手大学にはどのようなドラマがあるのでしょうか。 この授業では、まず明治期における日本の大学の発足経緯を「国家近代化」という歴史的視点から概観します。さらに大正期の大学拡張時代を経て、やがて大学も軍事色に染まる戦争の時代へと進みます。戦争の廃墟から日本が民主国家として再起する時、大学も大きく生まれ変わります。こうした日本の大学の歩みの中で、岩手大学は何を期待され、どう応えてきたのでしょうか。そして今、岩手大学はいかなる可能性に歩みを進めているのでしょう。高校の進路指導では伝えてくれなかった「岩手大学PRIDE」を歴史の中から理解していきます。 授業計画の後半では、岩手大学各部署のスタッフを講師として「岩手大学の現在とこれから」についてお話いただきます。就職活動や海外研修に関する情報提供もあります。事前に皆さんから担当者宛の質問を募集しますので、その応答もあるでしょう。職員さんは岩大出身者も多く、皆さんの最も身近な「大学の先輩」です。大学の「プロフェッショナル」であるそれぞれのお話を通じ、岩手大学の多様な側面が見えてくるはずです。ご期待下さい。
実務経験の有無と授業内容への反映	岩手大学のキャリア支援グループ、国際課、人事・総務・財務・研究推進・学務などの各課や各学部のスタッフが、それぞれ職場の役割やそこでのお仕事、さらにはご自身の学生時代のことやこれまでのキャリア形成についてもお話しくださいます。これらを通じ、岩手大学が目指している取り組みや大学という組織、そしてこれらを支える人々の理解を進めて下さい。このことが皆さんそれぞれの学びや将来を考える契機になるかも知れません。
授業の形式	本授業は教室での「対面授業」形式で実施します。ただし、COVID-19など感染症拡大に対応した大学の決定により「遠隔授業」に切り替わる場合もあります。また、授業期間中に感染に関わる症状を感じた場合は連絡してください。授業の履修や課題提出について状況に配慮した指示を出します。
授業外学修（予	各授業回後に「今日の授業からあなたの『トピック』を見いだし、そのことについて考え、調べ、それを『ウェブクラ

習・復習・課題等）への指示	ス』のレスポンス機能を使って次回授業までに報告提出してください（300字以上）」という課題を提示します。各自の興味関心に従い、自由に調べ、存分に報告して下さい。 なお、教室で出席調査を行いますが、感染をはじめとする体調不良の事前連絡があった場合に限り、教室出席に代わる「課題」を指示し、指定期間中での提出をもって授業出席扱いとします。この他、「遠隔授業」に切り替わることがあれば、遠隔授業時に指示する「課題の提出」の確認をもって「出席」とします。 授業資料は「電子資料（PDFファイル）」にて配信し、授業前日にウェブクラスで掲示します。事前に授業内容を予習・確認しておくと理解度が深まります。また、授業後の復習や授業課題の作成に活用することも可能です。

詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）

回／週	授業内容	授業外学修（予習・復習・課題等）への指示	備考
1	オリエンテーション（授業目的、内容、方法） 「日本における大学の現況」 ・18才人口の減少、大学間競争、大学の多様化 ・国立大学法人 ・入試改革 ※「大学のここが気になる！」を思うまま書き並べてみよう！	履修を決めたなら「大学のここが気になる」を書いて、次回授業までに提出してください。ここでの疑問が授業の大事な題材となっていきます。	
2	日本の大学の歴史1 「国家近代化と大学」 ・幕末の高等教育機関 ・明治政府の近代化政策 ・学制 ・お抱え外国人教師 ・東京大学の発足 ・私立大学の源流 ・福沢諭吉、大隈重信、新島襄 ・紙幣の肖像と大学（誰が、どの大学と？）	今回の授業内容について、興味関心のあった「トピック（話題、論題、話題になる事項）」を各自で見出し、そのことについて「ウェブクラス」を使用して、7日以内に報告してください。授業内容に関してさらにあなたが調べたこと、今までのあなたの体験にもとづく話題提供でもかまいません（200字～600字程度）。母校の歴史を調べるのもいいでしょう。報告には簡単なタイトル（見出し）をつけてください。	
3	日本の大学の歴史2 「帝国大学の誕生」 ・森有礼 ・諸学校令（国家主義と学校教育） ・帝国大学令 ・師範学校制度 ・盛岡師範学校（岩手大学教育学部の源流）	今回の授業内容について、興味関心のあった「トピック」を各自で見出し、そのことについて「ウェブクラス」を使用して、7日以内に報告してください。授業内容に関してさらにあなたが調べたこと、今までのあなたの体験にもとづく話題提供でもかまいません（200字～600字程度）。学校校章の話題も出ましたね。報告にはタイトル（見出し）をつけてください。	
4	日本の大学の歴史3 「盛岡高等農林学校の設置」 ・実業学校令 ・専門学校令 ・実業専門学校 ・東北地方の大凶作 ・盛岡高等農林学校の設置 （岩手大学農学部の前身） ・地域の豊かさのために （憧れの「高農さん」） ・壬生義士伝 ・高等農林学校における地方紳士育成	「盛岡高等農林学校の設置」やそれと関わる当時の状況、あるいは今日の現況」について、あなたなりの「トピック」を見いだし、そのことについて考え（あるいは調べ）、「ウェブクラス」を使用して、7日以内に報告してください。授業内容に関してさらにあなたが調べたこと、今までのあなたの体験にもとづく話題提供でもかまいません（200字～600字程度）。報告にはタイトル（見出し）をつけてください。	今回授業を契機に、是非、岩手大学農学部農業教育資料館（旧　盛岡高等農林学校本館）に足を運んでみて下さい。そのことをレポートしてもいいですよ。
5	日本の大学の歴史4 「大正期の高等教育 －高等教育の量的拡大と大学令の公布－」 ・激化する入学試験（入学試験問題の難化） ・大学令の公布 ・私立大学の認可 ・高等教育の量的拡大 ・旧制高等学校（エリートとバンカラ） ・大学予科 ・高等教育機関における芸術、文化、スポーツ	大正期の「高等教育」について、あなたなりの「トピック」を見いだし、そのことについて考え（あるいは調べ）、それを「ウェブクラス」を使って、7日以内に報告してください（200字～400字程度）。これにあたり、可能ならば「大学令」、「大学の量的拡大」、「私立大学(あるいは私学）」、「旧制高等学校」、「卒業生」のいずれかをキーワードとして報告文中に織り込んでください。なお、報告には「タイトル」を設定してください。	旧制時代の入学試験問題を紹介します。意欲あればチャレンジしてみて下さい。（かなり難解）
6	日本の大学の歴史5 「戦時体制下の高等教育と盛岡高等工業学校の設置」 ・戦前期の教育制度 ・教育勅語 ・戦争と大学 ・医学、理工系学校の増設 ・盛岡高等工業学校の創設 （岩手大学理工学部の前身） ・学徒出陣 ・師範学校の官立昇格	今回の授業の中から、あなたの「トピック」を見いだし、そのことについて考え（あるいは調べ）、それを「ウェブクラス」を使って7日以内に報告してください（200字～400字程度）。可能ならば「戦争」、「国家主義」、「盛岡高等工業学校」、「勤労動員」、「学徒出陣」、「理工系人材」、「女子専門学校」のいずれかをキーワードとして報告文中に織り込んでください。報告には「タイトル」を設定してください。	第10回からの「岩手大学の現在」パートにあたり、各回ご担当の講師にあてて、事前に皆さんからの質問を募集します。ふるって質問をしてください。各先生への質問は義務ではなく任意です。

6	・女子専門学校の増設（戦争による女子の高等教育進学）		
7	日本の大学の歴史6 「新制大学の発足：民主主義時代の大学として」 ・ポツダム宣言の受諾 ・アメリカ教育使節団 ・日本国憲法と教育基本法の公布 ・戦後大学改革 ・男女共学 ・女子大学と短期大学	⑴戦時期の大学や、日本の戦後大学改革について、あなたの「トピック」を見いだし、そのことについて考え（あるいは調べ）それを「ウェブクラス」を使って7日以内に報告してください。報告にあたっては、内容に応じた「タイトル」をつけてください。 ⑵次回授業までに、webシラバスの本日授業ページに提示している資料 「学びの銀河物語：建学をめぐるドラマ（第一章）」 を読んでおいて下さい。「本時のトピック」の報告は、この資料と関わる内容でも結構です。	「学びの銀河物語：建学をめぐるドラマ（第二章新学部創設をめぐるドラマ）」 はウェブクラスに掲載します。
8	日本の大学の歴史7 「新制国立大学制度と岩手大学の発足」 ・盛岡農林専門学校の東北大学合併構想 ・国立大学の発足 ・国立大学設置十一原則 ・岩手大学の設立 ・一般教育 ・学芸学部	本日の授業を踏まえ、新制国立大学制度や岩手大学の発足などについて、あなたの「トピック（話題、論題）」を見いだし、そのことについて考え（あるいは調べ）それを「ウェブクラス」を使って7日以内に報告してください。報告にあたっては、内容に応じた「タイトル」をつけてください。また、次回授業までに「学びの銀河物語：建学をめぐるドラマ（第二章新学部創設をめぐるドラマ）」を読んでおいて下さい。	「学びの銀河物語：建学をめぐるドラマ（第二章新学部創設をめぐるドラマ）」 はウェブクラスに掲載しています。
9	日本の大学の歴史8 「1960年代から1990年代の大学（大学の量的拡大と岩手大学人文社会科学部の設置）」 ・大学における教養部 ・大学紛争 ・岩手大学人文社会科学部の設置 ・医科大学と医学部の増設 ・私立大学と学部の新設 ・大学入試センター試験 ・大学の情報化・国際化 ★「レポートの書き方」について	「大学の量的拡大」または「大学の大衆化」のいずれかについて論点として設定し、「ウェブクラス」を使って7日以内に報告してください（200字～400字程度）。岩手大学人文社会科学部に関するテーマでも結構です。論点設定にあたっては、「大学の量的拡大にともなう入学試験について」や「私立大学のマンモス化をめぐって」など、内容に応じた「タイトル」をつけてください。	試験に代わる「大学歴史レポート」の書き方についても３０分くらい時間をとって説明します。
10	岩手大学の現在とこれから1 「岩手大学のキャリア支援」 （学務課地域協創教育室キャリア教育グループスタッフ担当） ・岩手大学のキャリア形成支援 ・「予測不能な時代」に求められる力 ・本学卒業生の就職状況	（以下の課題を予定します。正式には当日教室で） あなたは、自分の将来に向け、大学で何をどのように学びますか？ それは何故なのか理由も添えて記入して下さい。 可能ならば、冒頭に簡単な「タイトル（見出し）」をつけてください。	課題のタイトル例： 「私のキャリア設計」、「同時通訳を目指す」、「将来、何をしたいか分からない自分がキャリアを考える」、「この春休みの計画」など。
11	岩手大学の現在とこれから2 「岩手大学の国際交流」 （学務部国際課スタッフ担当） ・国際課の業務内容について ・どうして国際化？留学が必要なの？ ・留学の魅力って？自分に今できることは？ ・ようこそグローバルビレッジへ（学内でできる国際交流） ・岩手大学職員を目指した理由と現在の業務 ・学生活でやっておいたほうがいいこと ・皆さんからの質問にお答えします	（過去の課題を提示します。詳細は当日教室で） 岩手大学が実施する「国際交流」の取り組みやグローバルビレッジをテーマとした今日の授業から、あなたのトピックを見いだし、それについて報告してください。	課題のタイトル例：「やってみるか日本語カフェ」、「私のキャリア設計（留学編）」、「何をしたいか分からない自分が留学を考える」、「こんな私が南米で技術支援かも？」など。
12	岩手大学の現在とこれから3 （学務部学務課　奥崎たまえさん：教育学部事務室　武藤涼子さん担当） 「大学職員という仕事」 ・岩手大学の事務組織と業務内容 ・大学職員としての喜びと苦労 ・私のキャリア（大学職員として。学外に出向して） ・私が大学職員になった訳 （私の学生時代。なぜ大学職員に。採用試験のこと） ・学生の皆さんに伝えたいこと	（過去の課題を例示します。詳細は当日教室で） 以下の①と②の両方について、それぞれ自由に報告してください。回答にあたっては設問の番号を明記し、必要があれば「見出し」をつけてください。 ＝＝＝ ①　大学の収入を増やす方法、または経費を削減する方法について、みなさんが考える良いアイデアがあれば教えてください。（実現可能性は問いません。） ②　普段大学職員に抱いているイメージや大学職員への要望などお聞かせください。（どんなメッセージも歓迎します。）	大学職員さんへのエールやメッセージでも結構です。今週、出会った「大学職員さん」に関するレポートでもいいですよ。
13	岩手大学の現在とこれから4	今回授業からあなたのトピックを見いだ	課題の例：「初めて知った岩手

13	「地（知）の拠点しての大学」 （研究支援産学連携センター今井潤教授担当） ・産学官連携の意味 ・地域や社会から岩手大学はどう見られているか ・全国トップランクの岩大産学連携 ・大学発ベンチャー ・地域創生に大学生ができること ・岩手大学における「地域創生学修プログラム」	し、それについての考えや意見を「ウェブクラス」を使って7日以内に報告してください。必要があれば、今回ページに掲載している授業資料を活用して下さい。または、これまであなたが岩手大学で経験してきた地域課題研究やボランティア、あるいは地域関連学修の感想や意見、疑問などの報告でも構いません。課題報告にはいつものように「タイトル」をつけてください。	大学の地域貢献度ランキング」、「北海道出身の私にとっての地域貢献とは」、「学生による地域創生活動に参加して」など。
14	日本の大学の歴史9 「21世紀を迎えた大学」 ・構造改革と大学 ・大学設置基準の大綱化 ・大学評価 ・国立大学の法人化 ・岩手大学の第4期中期目標中期計画 ・岩手大学ビジョン2030 ★授業の結び ・課題「岩手大学への提言」にあたって ・成績評価について	今回の授業の中から、あなたの「トピック」を見いだし、そのことについて考え（あるいは調べ）、それを「ウェブクラス」を使って7日以内に報告してください。あるいは、この「大学の歴史と現在」全体を振り返り、改めてトピックを見出して論じても結構です（全体の感想、後から気がついたこと、もう一度報告したいこと、「大学いのここが気になる」が分かったこと、今・思うこと、など）。報告には、いつものように「タイトル」をつけて下さい。最後の報告提出ですから、2つ以上のトピックを論じてもかまいません。	最終課題「岩手大学への提言」の書き方や、その採点、成績評価について説明します。
15			
16			
17			
18			

成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	ウェブクラス課題提出（3点×毎時授業後の13回）	39%	○			△
	レポート（7月締め切りの「レポート1」と8月初旬締め切りの「レポート2」の計2回）28点満点×2回	56%		○	△	○
	平常特記事項加点（5点以内）	5%	○			

評価の基準

□毎時の課題提出：3点×13回＝計39点
　・毎時の出題テーマと回答指示に沿って記述され、期限内に提出されていること。
□レポート：28点×2（7月に歴史課題レポート、8月初旬に最終課題「岩手大学への提言」の提出を求めます。）
　「歴史課題レポート」の採点にあたっては、出題内容に対応して執筆されていること前提に、さらに下記の点を確認します。採点の平均は20～22点を想定します。
【問題設定】
・「問題設定」が明確になっている。（大学をめぐって「何が問題なのか」の現状把握からはじまる）
・そのことについて「何を明らかにしたいのか」、あるいは「考えたいのか」を明確にしている。
【構成・タイトル】
・「序論（はじめに）」、「本論」、「結論（考察・おわりに）」という構成になっている。
・本文の問題設定や内容と整合したタイトルとなっている。
・結論部が問題設定部と整合している。また結論部と本論部の内容に矛盾が無い。
【内容】
・設定した問題について日本の大学（あるいは高等教育）の成り立ちあるいは歴史的経緯・状況について論じられ、それらの意義や課題についても言及している。
・主観的な作文になっていない。（「私は～思う。」が濫用されていないか。）論の展開にあって「根拠」が示されている。

□平常特記事項加点（5点以内）
　・毎時の課題や最終レポートで誠実な努力や創意工夫を確認できた時、または授業への積極的貢献や着実な参加を確認できた時など、誰にでも可能性のある良好な学修状況に応じ、5点の範囲で加点します。
★上記の他、平常点として出席状況が良好な場合（全出席、または欠席1回）は最終素点に係数1.04を、出席状況が10回（以下）の場合は係数0.94（以下）を乗じます。
★提出したレポートが、他者の作成したものを全体的にそのまま複写していたり、他者が代理作成していることを確認できた場合は「重大な不正行為」として、最終評点0点（不合格）と判定し、以後も本授業の履修を認めません。本授業の単位認定のみならず、学内規程に照らした厳しい措置をとります。

履修における留意点	合格評定（単位認定）は、授業回数2/3以上の出席（９回以上）を最低条件とします。ただし出席回数にかかわらず、課題提出状況や最終課題採点結果により、不合格判定となる場合があります。「優（80点）」以上の評価を得るには最低限12回 の授業出席を必要とします。教科書は使用せず、毎時教材資料（電子ファイル）をウェブクラスで授業前に配信します。授業前に資料をダウンロードして、各自授業時に準備し、必要に応じて予習復習に活用してください。
教科書 / 教材	
参考文献	岩手大学創立50周年記念誌編集委員会、岩手大学五十年史、岩手大学、2000年 天野郁夫、新制大学の時代、名古屋大学出版会、2019年、9784815809560 天野郁夫、帝国大学（近代日本のエリート育成装置）、中公新書、2017年、9784121024244

参考文献	草原克豪、日本の大学制度（歴史と展望）、弘文堂、2008年、9784335551154